

【ライブ配信】 楽天CFDセミナー

# コモディティアナリスト 吉田哲の注目銘柄と今後の展望

2025年7月25日（金） 19:30～20:15

本案内に記載の勉強会では、勉強会でご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。弊社の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

## 楽天証券経済研究所 コモディティアナリスト

吉田 哲 (よしだ さとる)

1977年生まれ。超就職氷河期の2000年に、新卒で商品先物会社に入社。2007年よりネット専業の商品先物会社でコモディティアナリストとして活動を開始。2014年7月に楽天証券に入社。2015年2月より現職。

「過去の常識にとらわれない解説」をモットーとし、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどで幅広く情報発信を行っている。2016年7月から2021年3月まで毎週火曜、日経CNBCでコモディティ情報のコーナーを担当。

現在は、ほぼ毎営業日、ウェブサイトみんなかぶ（先物）にコメントを（2025年5月9日時点で1966回目）、毎週火曜日（原則）、楽天証券のオウンドメディア「トウシル」に週刊コモディティレポートおよび動画コンテンツを投稿中。

大学生と高校生の娘とのコミュニケーションの一部を、活動の幅を広げる要素として認識。キャリア形成のための、学びの場の模索も欠かさない。

山形県生まれ、趣味は合唱曲鑑賞。

1. **商品CFD 変動率ランキング**
2. **注目銘柄の振り返りと展望**
3. **質疑応答**

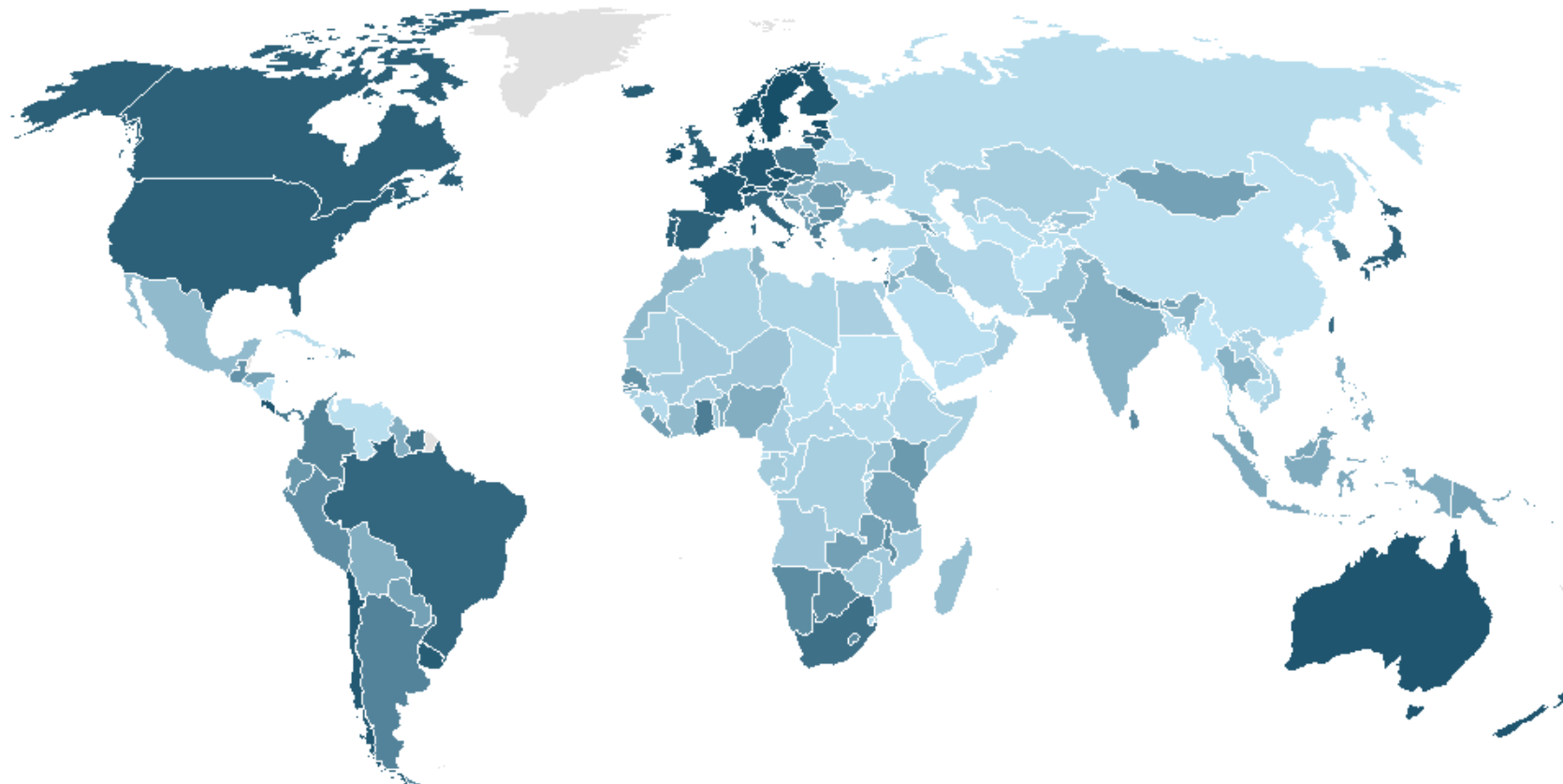
# 商品CFD 変動率ランキング (2024年12月30日と2025年7月16日を比較)

No	銘柄	騰落率
1	プラチナ	+49.00%
2	銅	+33.94%
3	パラジウム	+30.30%
4	銀	+28.37%
5	金	+26.87%
6	香港HS50	+22.52%
7	ドイツ40	+20.25%
8	生牛	+13.67%
9	ユーロ50	+9.17%
10	米国NQ100	+6.41%

No	銘柄	騰落率
11	米国500	+4.46%
12	米国30	+2.42%
13	コットン	-0.54%
14	日本225	-1.21%
15	小麦	-1.26%
16	原油	-6.37%
17	トウモロコシ	-7.72%
18	コーヒー	-8.13%
19	粗糖	-8.65%
20	ココア	-23.98%

出所：マーケットスピードIIのデータより筆者作成

# 自由民主主義指数 (2024年)



## ※自由民主主義指数 (Liberal democracy index) について

民主主義の様々な側面を研究し、世界各国の民主主義の状況を分析・評価している独立研究機関、V-Dem研究所（スウェーデン）が算出・公表しています。

行政の抑制と均衡、市民の自由の尊重、法の支配、立法府と司法の独立性など、自由や民主主義に関する多くの要素を考慮しています。

0と1の間で決定し、0に近ければ近いほど、その国は自由度・民主度が低く、1に近ければ近いほど、自由度・民主度が高いことを示します。

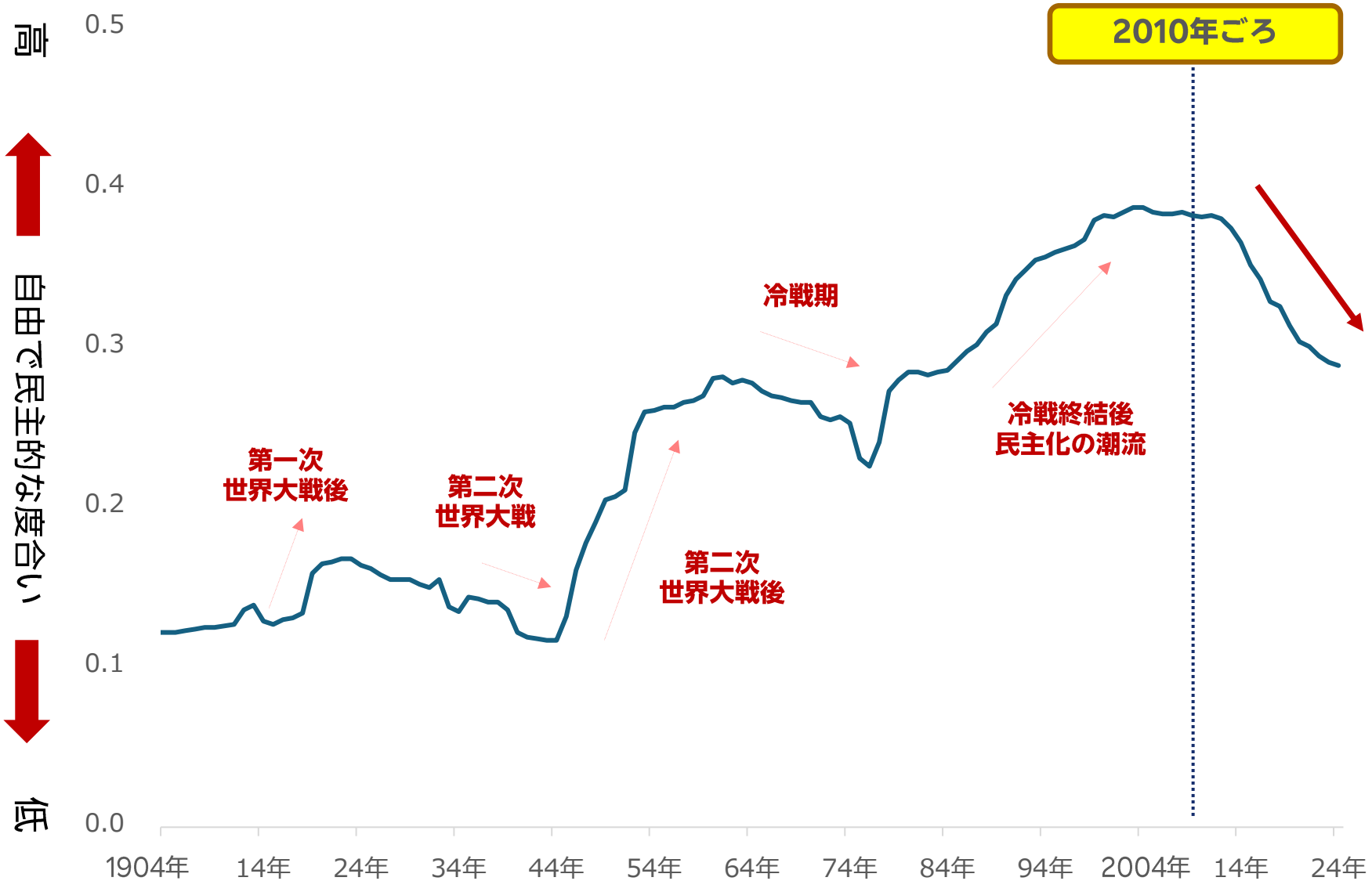
右の図は、2024年時点の各国の数値を示しています。青が濃ければ濃いほど（1に近ければ近いほど）その国は自由度・民主度が高く、薄ければ薄いほど（0に近ければ近いほど）その国は自由度・民主度が低いことを意味します。

人口の比率については、0.4以下の自由度・民主度が比較的低い国の人口の合計と、0.6以上の自由度・民主度が比較的高い国の人口の合計の比率です。（いずれも2024年度）



出所：V-Dem研究所などのデータより筆者作成

# 世界の自由民主主義指数（人口加重平均）



※自由民主主義指数 (Liberal democracy index) について

民主主義の様々な側面を研究し、世界各国の民主主義の状況を分析・評価している独立研究機関、V-Dem研究所（スウェーデン）が算出・公表しています。

行政の抑制と均衡、市民の自由の尊重、法の支配、立法府と司法の独立性など、自由や民主主義に関する多くの要素を考慮しています。

0と1の間で決定し、0に近ければ近いほど、その国は自由度・民主度が低く、1に近ければ近いほど、自由度・民主度が高いことを示します。

右のグラフは、世界の自由民主主義指数（人口加重平均）の推移です。

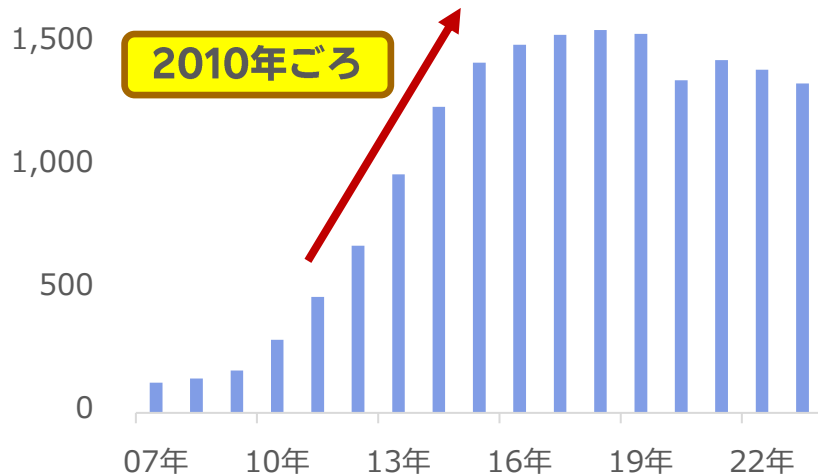
出所：V-Dem研究所などのデータより筆者作成

世界分断は、2010年ごろからはじまった。

# 2010年ごろに変化が生じた世界情勢の急変を示す四つのデータ

## 世界のスマートフォン販売台数

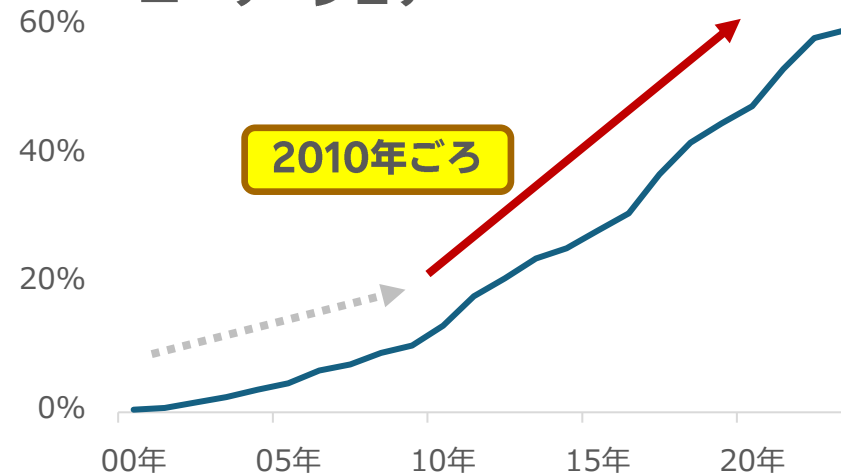
単位：百万台



出所：Gartnerの情報をもとに筆者作成

## 世界のソーシャルメディアユーザーシェア

ユーザーシェア



出所：we are socialのデータに基づき筆者作成

## 世界 (142か国) の ネガティブ経験指数※

※世界のネガティブ経験指数 (Negative Experience Index) について

アメリカに拠点を置く世論調査とコンサルティングを行う企業、Gallupが、集計・公表しています。

数値は、昨日1日の多くの時間に、身体の痛み、心配、悲しみ、ストレス、怒りを感じたかどうかという問いに対する、有効な肯定的回答の平均値に100を乗じたものです。(国レベルの数値は0~100の範囲)

数値が高いほど、ネガティブな感情が浸透していることを意味します。

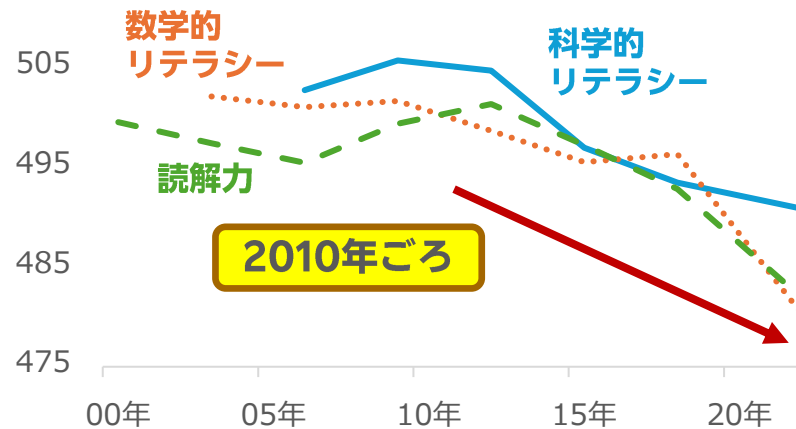
2023年の数値は、142の国と地域で15歳以上を対象に行われた約14万6,000件のインタビューに基づいて算出されています。



出所：Gallupのデータに基づき筆者作成

## 国際学力調査「PISA」の結果

(OECD主要23か国平均) 単位：点



出所：OECDのデータより筆者作成

2010年ごろ以降、世界は「生きにくくなった」。

# 2010年ごろ以降の世界分断と高インフレ（長期視点）の背景

## 2010年ごろ以降

新しい技術・考え方の**マイナス面**が目立つ  
(矛盾・ジレンマ拡大)

### **SNS** (ソーシャルネットワーキング)

→ デマ・誹謗中傷・感情噴出が横行

### **AI** (人工知能)

→ 人類の最後の資産「思考」が奪われる

### **ESG** (環境・社会・企業統治)

→ 資源国・専制主義国の多くが窮地に追い込まれる

### **DEI** (多様性・公平性・包摂性)

→ 「キャンセルカルチャー」が横行

トランプ氏、拍車かける

世界民主主義後退

世界分断

資源  
武器利用  
横行

金 (ゴールド) 高騰

中央銀行 買い進む

戦争勃発・悪化

原油 高止まり

金属 高止まり

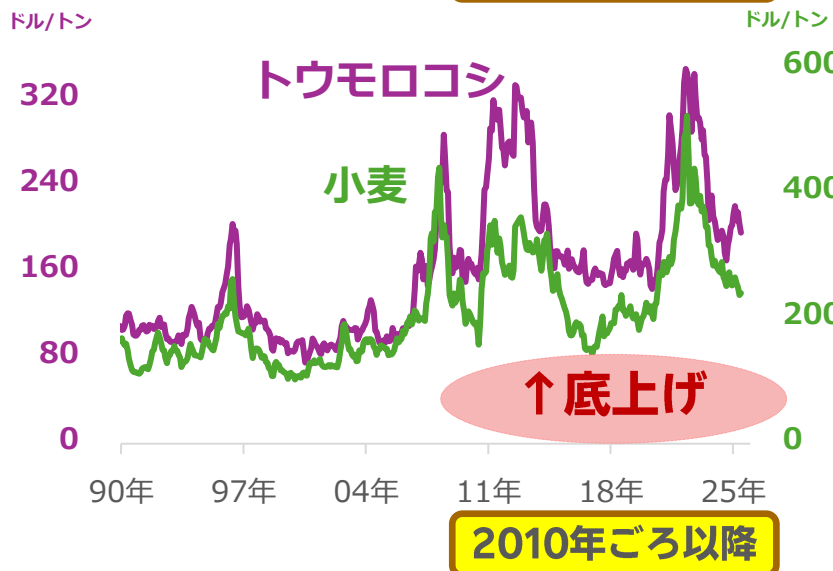
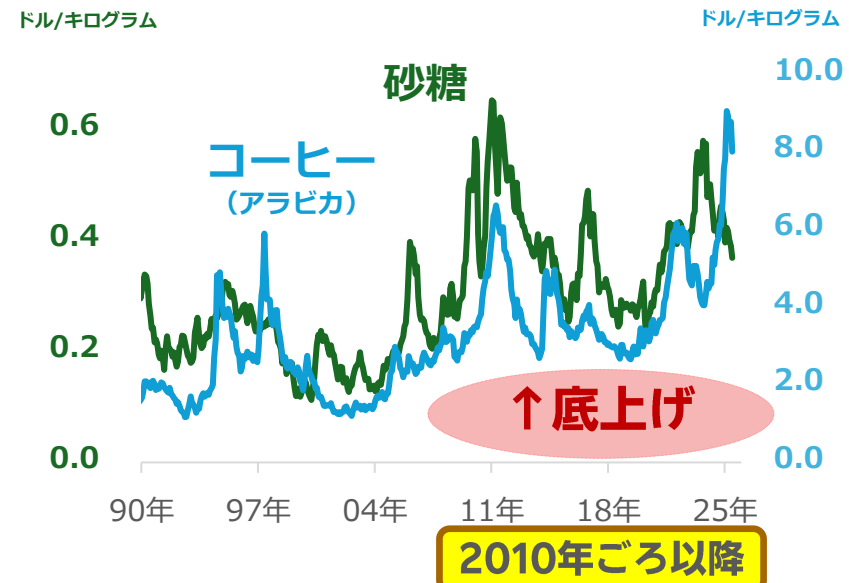
食品 価格高騰

高インフレ

出所：筆者作成

新しい技術・考え方の「マイナス面」は、民主主義の後退・世界分断深化の一因

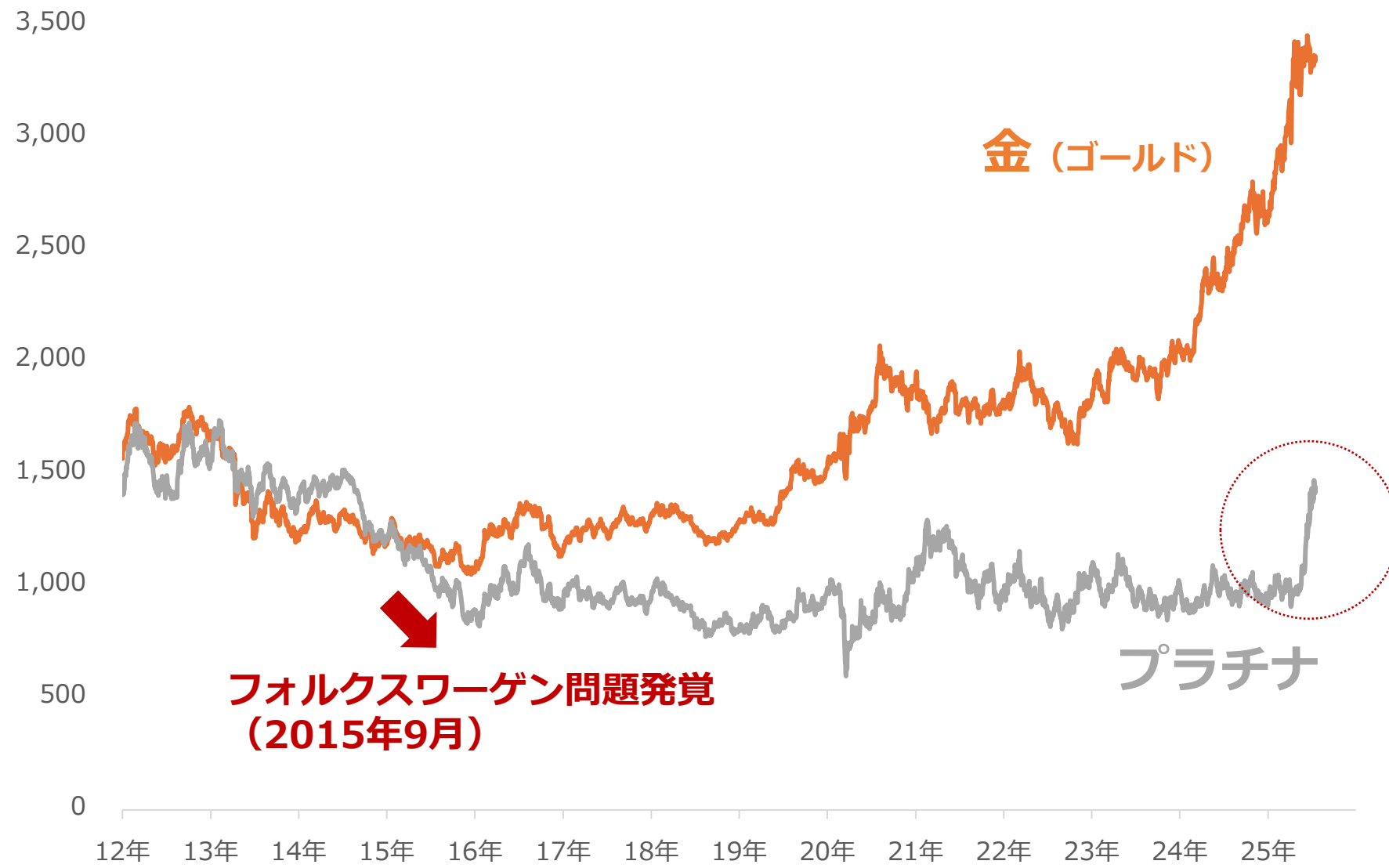
# ● 主要なコモディティの価格推移



出所：世界銀行のデータをもとに筆者作成

コモディティは2010年ごろから、幅広い銘柄で「底上げ」が起きている。

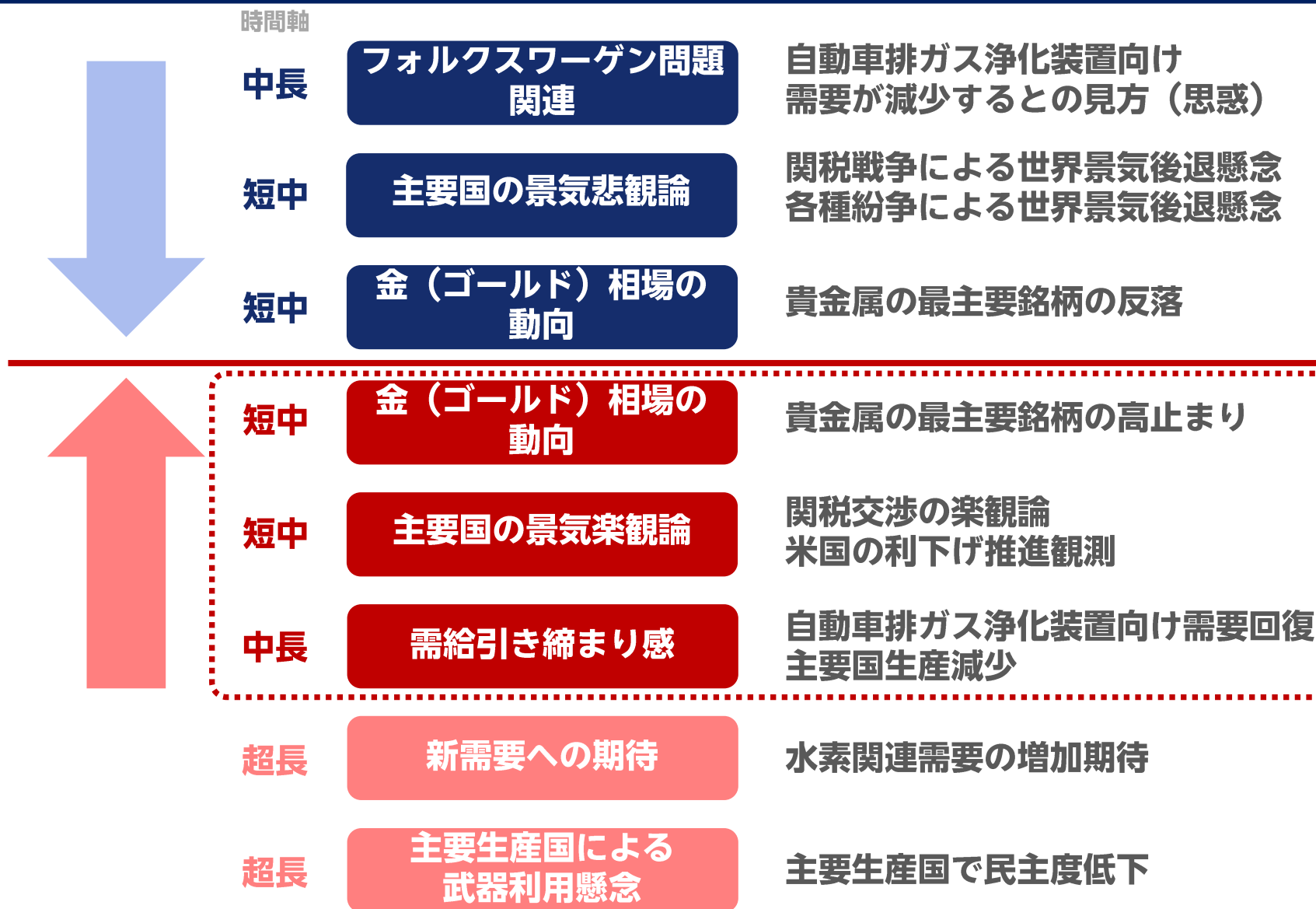
● NY金（ゴールド）、プラチナ先物（中心限月）価格推移 単位：ドル/トロイオンス



出所：ブルームバーグのデータより筆者作成

長期視点では金（ゴールド）、短期視点ではプラチナの上昇が目立つ。

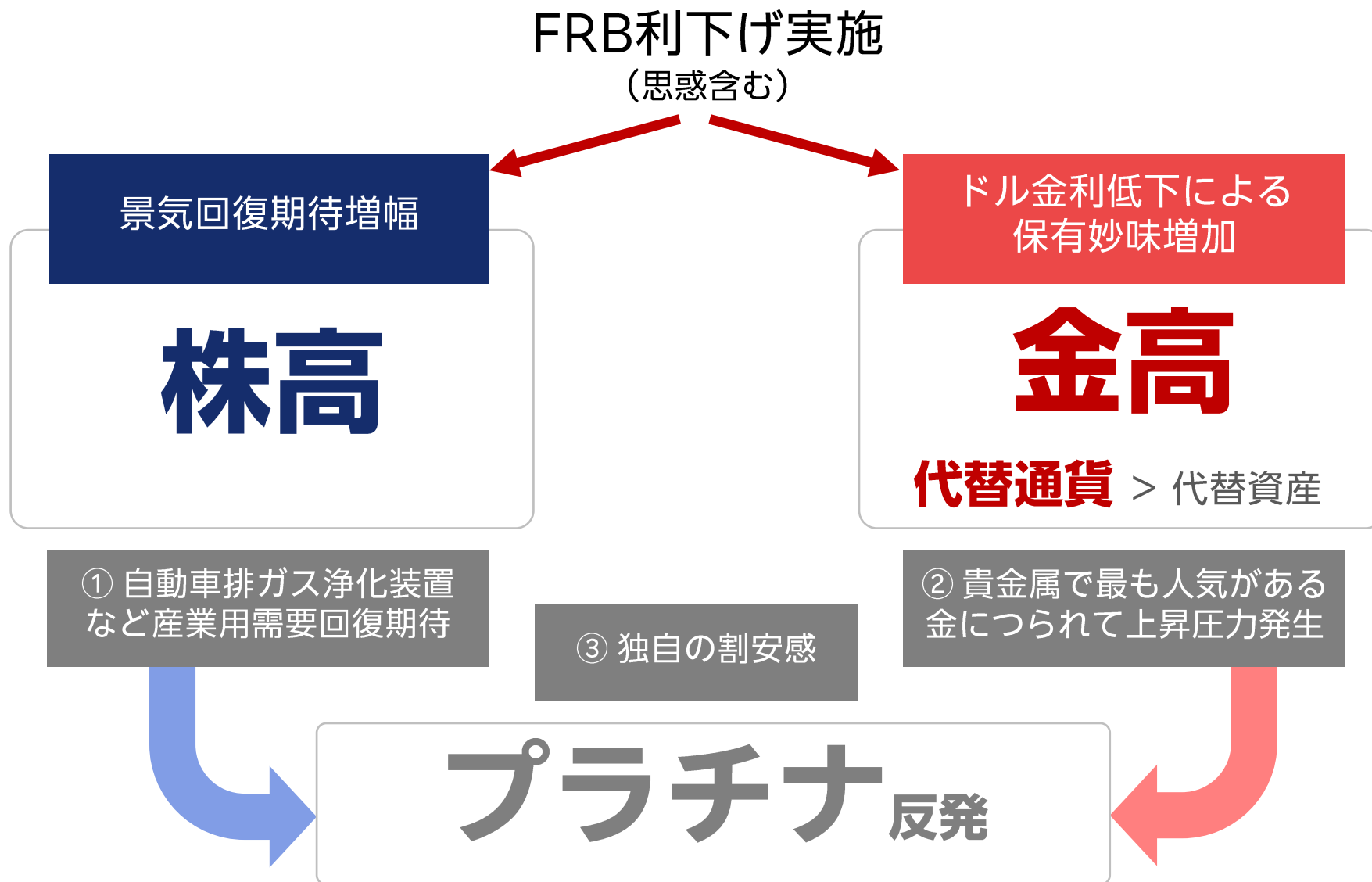
# ● プラチナ市場を取り巻く環境（2025年）



出所：筆者作成

短期視点で、上昇圧力が勝っている。（長期視点はこれから）

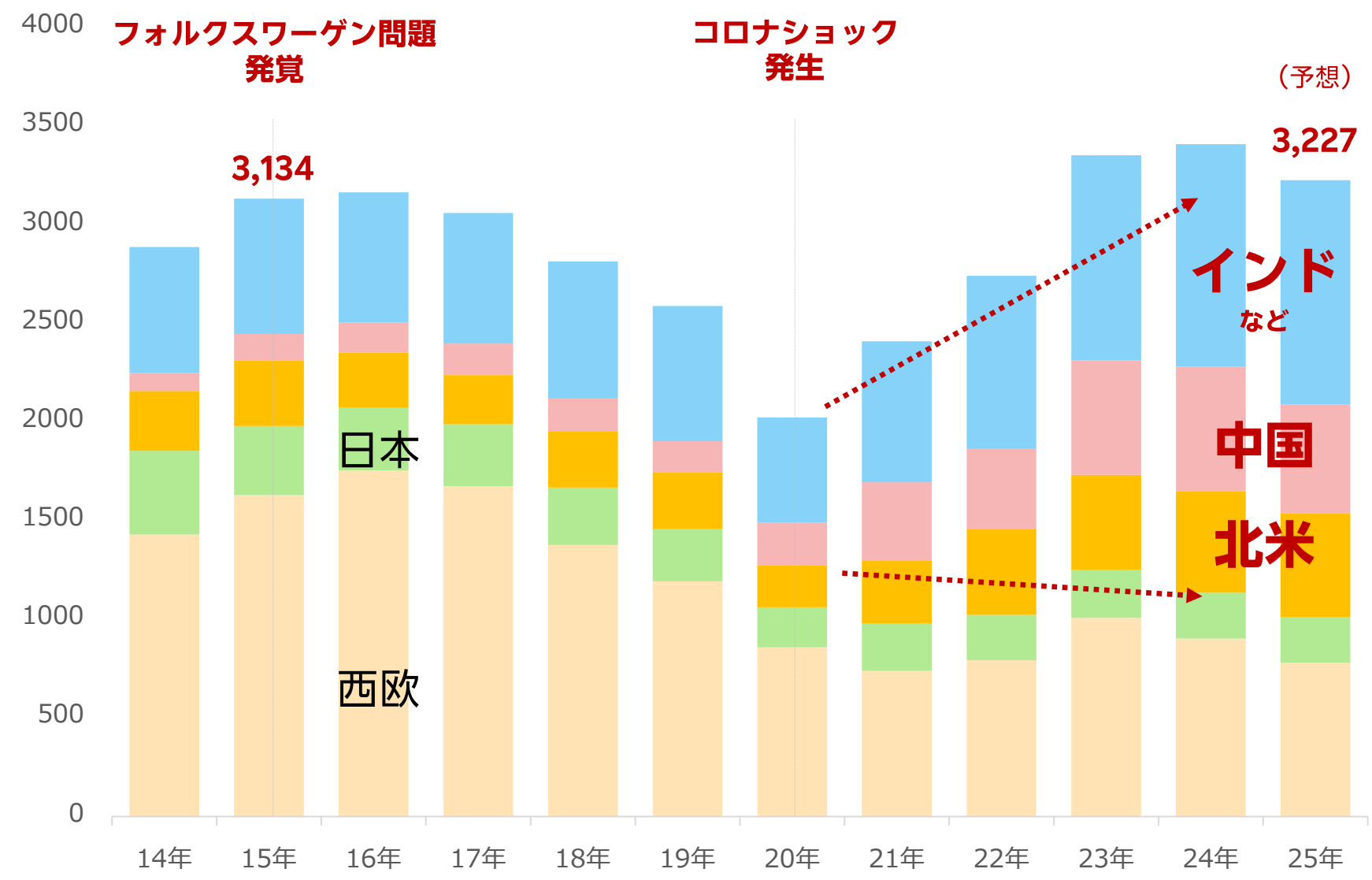
# FRB利下げ実施時に想定されるプラチナ市場を取り巻く環境



出所：筆者作成

利下げ実施時、プラチナ市場に複数の上昇圧力発生か。

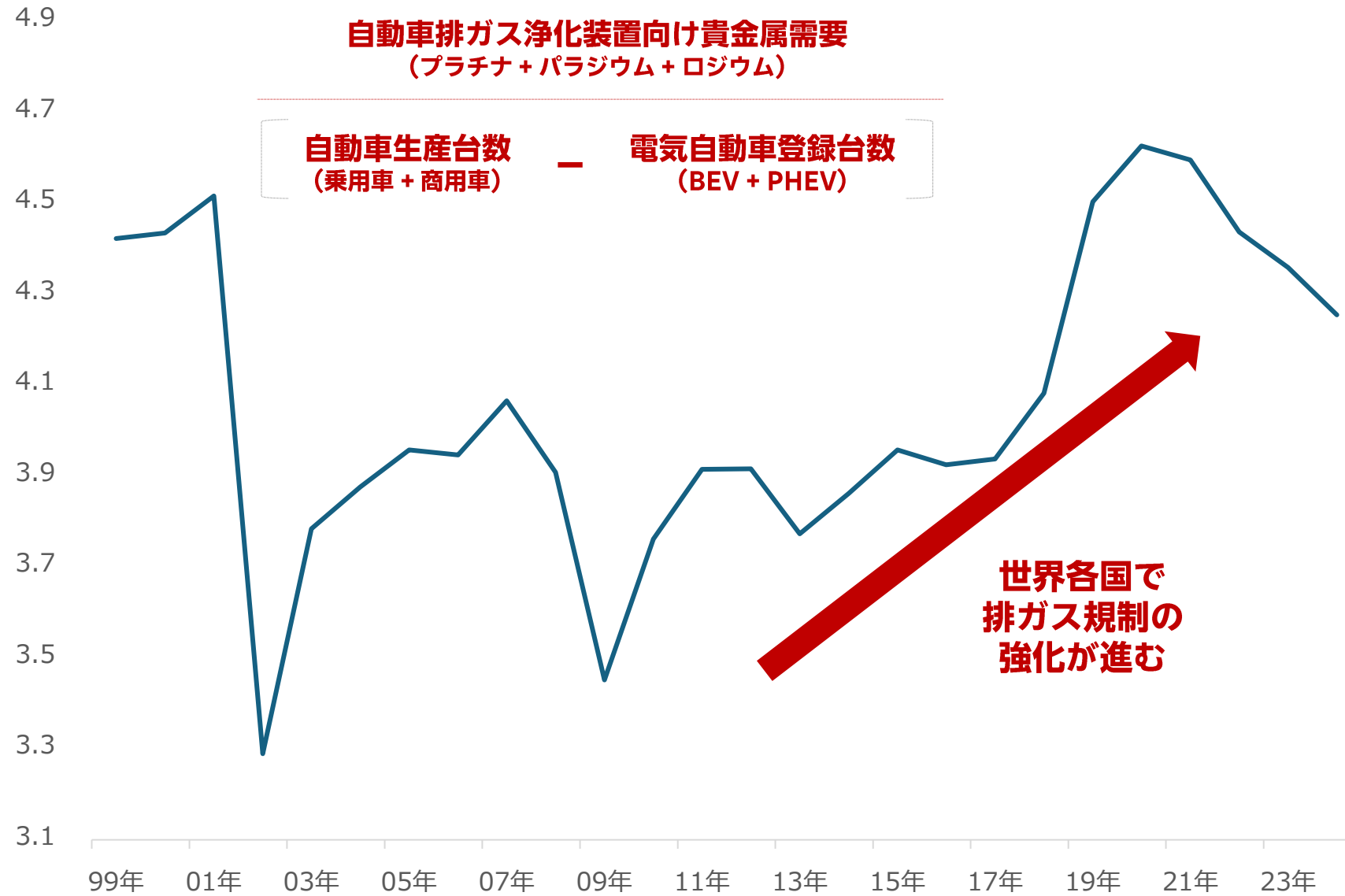
# ● プラチナの自動車排ガス浄化装置向け需要の推移 単位：千オンス



出所：Johnson Mattheyのデータをもとに筆者作成

プラチナの同需要は問題発覚の年の水準まで回復した。

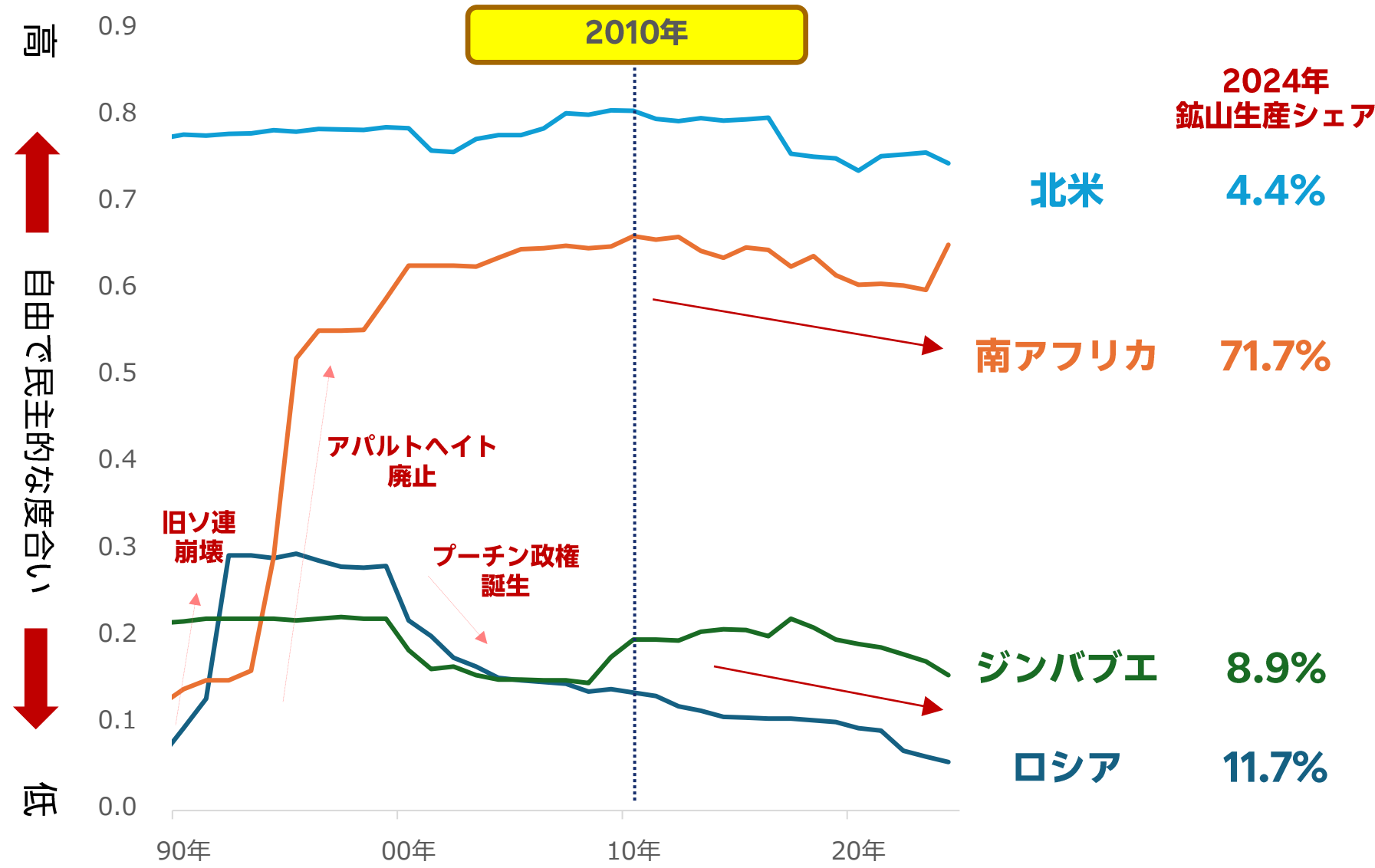
● 内燃機関を有する自動車1台あたりの排ガス浄化装置向け貴金属需要（筆者推計 世界合計） 単位：グラム/台



出所：Johnson Matthey、OICAのデータをもとに筆者推計

排ガス規制の強化は自動車1台あたりの貴金属需要を増やしている模様

# ● プラチナの主要鉱山生産国の自由民主主義指数



※北米の自由民主主義指数は米国とカナダの平均

出所：V-Dem研究所およびWPICのデータをもとに筆者作成

プラチナの主要鉱山生産国において、出し渋り懸念が高まっている。

## ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいませようをお願いいたします。

## CFD取引にかかるリスクと費用等について

### CFD取引にかかるリスク

CFD取引は、お取引の対象となる銘柄の価格変動、金利相当額、配当相当額、価格調整額の支払い、各国の経済、社会情勢、金融政策、金融指標等の変動により損失が生じるおそれがあり、投資元本が保証されたものではありません。また、CFD取引は差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため大きな損失が発生する可能性があり、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

### CFD取引にかかる費用等

CFD取引の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各銘柄の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。スプレッドは銘柄ごとに異なります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

### 証拠金について

〔楽天CFD〕

取引金額に対して、指数CFDは10%以上、商品CFDは5%以上、バラエティCFDおよび株式CFDは20%以上の証拠金が必要となります。  
(楽天CFDのお取引は現時点では個人口座のみとなります。)

〔楽天MT4CFD〕

個人口座、法人口座ともに取引金額に対して、MT4証券CFDは10%以上、MT4商品CFDは5%以上の証拠金が必要となります。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会